原子力安全·保安院

地震・津波7-3

中国電力株式会社島根原子力発電所における
 周辺斜面の安定性解析について

平成23年12月19日 原子力安全·保安院

原子力安全·保安院

目次

- 1. 評価方針
- 2. 評価斜面の選定
- 3. 地質概要
- 4. 評価方法
- 5. 評価結果
- 6. まとめ
- <参考>岩級区分基準
- <参考>解析用物性値設定の考え方
- <参考>解析用物性值一覧表

1. 評価方針

耐震安全上重要な機器・配管系を内包する建物・構築物等の周辺斜 面について、基準地震動Ssによる地震力に対して、施設の安全性に重 大な影響を与えるような崩壊を起こさないことを確認するため、すべり に対する安定性を評価する。

2. 評価斜面の選定

「原子力発電所耐震設計技術指針 JEAG4601-2008」では、安定性評価の対象とすべき斜面は斜面法尻と対象施設の離間距離が約50m以内、あるいは斜面高さの約1.4倍以内の斜面としている。安定性評価の対象とすべき斜面は、原子炉建物等と斜面法尻との距離および斜面高さ等を考慮し、当該斜面法尻に直交する断面(X-X'断面)とする。



3. 地質概要 (1)**地質断面図**

対象斜面における成相寺層は、走向N70°W~E-W,傾斜約10°~20°Nであるが、 南へ向かうに従って急勾配となり、背斜軸の近接部では最大65°Nを示す。 造成線から深度30m~40m程度まで、風化によるC_L級及びD級の岩盤が存在するが、 大部分がC_H級及びC_M級の岩盤からなる。



原子力安全·保安院

3. 地質概要 (1) **地質断面図**



鉛直岩盤分類図



敷地内には、29枚(層準)のシームがある広がりをもって断続的に分布している。 シームは全て層理に平行な走向・傾斜で、厚さはほとんどが3cm程度以下である。



鉛直シーム分布図

原子力安全•保安院

4. 評価方法 (1)安定性評価フロー



4. 評価方法 (2)解析用岩盤分類図 解析用岩盤分類図は、地質断面図を基に岩相、岩級、シーム及び速度層を反 映して作成する。 Χ' Х T. P. (m) □:CH級 黒色頁岩 □:C M級 黒色頁岩 □□□級 T. P. (m) 🚺:C L級 黒色頁岩 □:CH級 凝灰質頁岩 □□:CM級 凝灰質頁岩 <u>-</u>:シーム ■:CL級 凝灰質頁岩 □ 150 150 -CH級 凝灰岩 ○○:CM級 凝灰岩 □□:CL級 凝灰岩 ----:速度層境界 第①速度層 ▋:C H級 火山礫凝灰岩 💹:C M級 火山礫凝灰岩 🎆:C L級 火山礫凝灰岩 □:CH級 凝灰角礫岩 .CM級 凝灰角礫岩 🔜:C L級 凝灰角礫岩 **:CH級 ドレライト** ___:Cм級 ドレライト 100 100 □:CH級 安山岩 □:C M級 安山岩 □ : C L級 安山岩 83速度層 50 50 第③速度層 第③速度層 第4)速度層 0 0 -50 -50 -100 -100 -150 -150第⑦速度層 -200 --215 --200 -215 620m



4. 評価方法 (4) **境界条件**



4. 評価方法 (5)入力地震動の考え方

解析モデル底面に入力する地震動としては、解放基盤表面(T.P.-10m)で定義した 基準地震動Ssを、炉心における速度層区分による一次元波動論に基づき入力基 盤面(T.P.-215m)まで引き戻した地震波を用いる。



4.評価方法 (6)**基準地震動**Ss

解放基盤表面で定義される基準地震動Ssのうち、Ss-1は水平動の最大加速度が 600cm/s²、鉛直動の最大加速度が400cm/s²であり、Ss-2は水平動の最大加速度 が493cm/s²、鉛直動の最大加速度が155cm/s²である。



Ss-1:検討用地震による地震動に余裕を持たせて策定した地震動

Ss-2: 宍道断層の断層モデルによる地震動(応力降下量(短周期レベル)1.5倍)

4. 評価方法 (7) 地下水位

解析用地下水位は、ボーリング孔における水位観測結果に基づく各孔の最高水 位を初期条件とし、大雨状態を想定した浸透流解析により設定する。



4. 評価方法 (8)**評価内容**

評価項目	評価内容
想定すべり線における すべり安全率	想定すべり線上の応力状態を基に、すべり線上のせ ん断抵抗力の和をすべり線上のせん断力の和で除し て求める。なお検討は、主にシーム沿いの想定すべり 線を対象とする。

5.評価結果 (1)すべり安全率

すべり安全率は、いずれも評価基準値1.2を上回ることから、すべりに対して十分な安 定性を有している。



5.評価結果 (1)すべり安全率



※()内の数値は、最小すべり安全率を示す時刻に対して、静的解析 によって応力再配分を行った場合のすべり安全率を示す。

5. 評価結果 (2) 岩盤の局所安全係数

局所安全係数が1.00を下回る要素は連続していない。



岩盤の局所安全係数[Ss-1, 最小すべり安全率発生時刻16.10秒]

5. 評価結果

(3)シームの局所安全係数

局所安全係数が1.00を下回る要素は連続していない。



シームの局所安全係数[Ss-1, 最小すべり安全率発生時刻16.10秒]

6. まとめ

想定すべり線におけるすべり安全率は評価基準値1.2を上 回っており、周辺斜面は、基準地震動Ssに対して施設の安全 性に重大な影響を与えるような崩壊を起こさないことを確認した。

<参考>岩級区分基準

岩盤分類は、(社)日本電気協会「原子力発電所耐震設計技術指針 JEAG4601-1987」の 岩盤分類法の適用において硬岩に分類されるため、電研式岩盤分類を基本とし、「割れ 目間隔」「割れ目状態」「風化程度」を分類の指標として、岩種毎にC_H級、C_M級、C_L級及 びD級の4段階とした。

割れ目間隔			割れ目状態	風化程度				
I	30cm以上[コア形状は長柱状]	α	新鮮	1	新鮮である。ハンマの軽打で澄んだ金属 音を発する。			
П	10cm~30cm[コア形状は柱状]	β	割れ目が汚染され、岩石組織が若干変質	2	概ね新鮮であるが,部分的に褐色の風化 汚染が認められる。ハンマの軽打で一部 低い金属音を発する。			
ш	5cm~10cm[コア形状は短柱状]	r	粘土,風化物質,外来物質を介在する	3	全体にやや風化変質している。ハンマの 軽打でやや濁った金属音を発する。			
IV	3cm~5cm[コア形状は岩片状 (柱状に復元可能)]			4	岩芯まで風化変質している。ハンマの軽 打で容易に岩片状となる。			
v	3cm以下[コア形状は短片状 (柱状に復元不可能)]			5	強風化を受け,砂~粘土状を呈する。			
VI	割れ目として認識できない土砂状の岩盤 [コア形状は土砂状]			άlξ.				

<参考>岩級区分基準

割れ目 間 隔	風化程度 割れ目状態	1	2	3	4	5	割れ目 間 隔	風化程度 割れ目状態	1	2	3	4	ţ
	α	C _H	C _H	\searrow	\square	\square		α	CL	CL	CL	\searrow	\sum
I	β	C _H	С _н	C _M	\backslash	\square	IV	β	CL	CL	CL	CL	
	r	Сн	C _H	CM	CL	\square		r	CL	CL	CL	CL	\searrow
	α	C _H	C _H	C _M	\searrow	\square		α	CL	CL	CL	D	\backslash
п	β	Сн	CM	C _M	CL		v	β	CL	D	D	D	
	r	C _M	CM	CL	CL	\square		r	\searrow	\backslash	D	D	1
	α	CM	C _M	C _M	CL	\square		α	\searrow	\mathbb{N}	\searrow	\searrow	
Ш	β	С _м	CL	CL	CL	$\overline{\langle}$	VI	β	$\overline{\ }$	\backslash	$\overline{\ }$	\mathbb{N}	
	r	CM	CL	CL	CL	\square		r	$\overline{\ }$	\backslash	\nearrow	D	1

<参考>解析用物性値設定の考え方

岩盤、シームの物理、強度特性



:岩石・岩盤試験のデータによる。

:他の岩種・岩級のデータ物性に基づき算定する。

※1:物性値は得られているが、上位岩級における同一岩種との物性値の大小関係が逆転するため、上位岩級の物性値を限度とする。

く参考>解析用物性値設定の考え方

岩盤、シームの静的変形特性



:岩石・岩盤試験のデータによる。

:他の岩種・岩級のデータ物性に基づき算定する。

:慣用値で代替する。

※1:物性値は得られているが、上位岩級における同一岩種との物性値の大小関係が逆転するため、上位岩級の物性値を限度とする。

※2:物性値が得られていないため、上位岩級における同一岩種の物性値を用いる。

※3:CL級の岩石試験結果によるポアソン比に替えて、試験結果から得られた最大のポアソン比(CH級ドレライト)を用いる。

く参考>解析用物性値設定の考え方

岩盤、シームの動的変形特性



:慣用値で代替する。

<参考>解析用物性值一覧表

C_H、C_M、C_L級岩盤の解析用物性値

	<u>岩種・岩級</u> C _H 級岩盤 C _M 級岩盤							CL版岩盤																
物 1	ŧű			黒色 頁岩	凝灰質 真岩	凝灰岩	火山礫 凝灰岩	凝灰 角礫岩	ドレライト	安山岩	黑色 頁岩	凝灰質 夏岩	凝灰岩	火山礫 凝灰岩	凝灰 角礫岩	ドレライト	安山岩	黑色 頁岩	凝灰質 頁岩	凝灰岩	火山磯 凝灰岩	凝灰 角碟岩	トレライト	安山岩
物理 特性		密度 p_s(g/cr	π ³)	2.59	2.54	2.49	2.47	2.46	2.66	2.68	2.58	2.54	2.43	2.36	2.41	2.60	2.68	2.58	2.50	2.30	2.29	2.31	2.53	2.59
		せん断強度 <i>こ</i> _(N/m ²)		1.64	1.04	2.03	1.68	2.52	2.01	2.01	0.74	0.47	0.92	0.76	1.14	0.91	0.91	0.49	0.31	0.61	0.51	0.76	0.61	0.61
強度 特性	静的 動的 特性	内部調	集擦角 (*)	53	57	58	57	57	58	58	44	47	48	47	47	48	48	44	47	48	47	47	48	48
		残留引 r(N	残留強度 r(N/nm ²)		1.24 σ ^{.0.76}	1.16σ ^{0.00}	1.22 a ^{0.67}	1.21 0 ⁰⁰⁸	1.15σ ⁰⁴⁸	1.15 σ ^{0.00}	1.07 σ ^{0.54}	1.03 a ^{0.54}	0,95 $\sigma^{0.94}$	1.01 σ ^{0.54}	1.00 o ^{-0.04}	0.94 σ ^{0.54}	0.94 σ ⁰⁵⁴	0.87 a ^{0.54}	0.83 0 ⁻⁰³⁴	0.75 σ ⁸⁵⁴	0.81 $\sigma^{0.64}$	0.80 (7 ^{0.54}	0.74 σ ⁰⁰⁴	0.74 σ ^{0.54}
	静的	静弹也 E(×10	±係数 ⁵ N/mm²)	5.97	6.58	7.70	8.55	4.27	10.72	10.72	1.59	1.63	1.70	1.76	1.47	1.91	1.91	0.78	0.80	0.83	0.86	0.72	0.93	0.93
	特性	静ボア	'ソン比 /	0.19	0.18	0.18	0.16	0.20	0.27	0.25	0.20	0.19	0.18	0.17	0.22	0.27	0.25	0.27	0.27	0.27	0.27	0.27	0.27	0.27
			第①速度層	0.19	0.19	0.18	0.18	0.18	0.19	0.20	0.19	0.19	0.18	0.17	0.18	0.19	0.20	0.19	0.18	0.17	0.17	0.17	0.18	0.19
			第②速度周	1.00	0.98	0.96	0.95	0.95	1.02	1.03	0.99	0.98	0.93	0.91	0.93	1.00	1.03	0.99	0.96	0.88	0.88	0.89	0.97	1.00
		動せん断	第③速度層	2.39	2.34	2.29	2.28	2.27	2.45	2.47	2.38	2.34	2.24	2.17	2.22	2.40	2.47	2.38	2.30	2.12	2.11	2.13	2.33	2.39
1.00		弾性係数	第④速度層	5.98	5.87	5.75	5.71	5.68	6.15	6.19	5.96	5.87	5.61	5.45	5.57	6.01	6.19	5.96	5.78	5.31	5.29	5.34	5.85	5.98
変形		G,	第回連度層	9.35	9.17	8.99	8.92	8.88	9.60	9.67	9.31	9.17	8.77	8.52	8.70	9.39	9.67	9.31	9.03	8.30	8.27	8.34	9,13	9,35
1412		(×10°N/mm*	第6)速度間 第2)速度間	11.42	11.20	10.98	10.89	10.85	11.73	11.82	11.38	11.20	10.72	10.41	10.63	11.47	11.82	11.38	11.03	10,14	10.10	10.19	11.10	11.42
			第()連度間 第()連度開	8.11	1.90	7.80	7.74	1.0	6.33	8.40	6.08	7.90	7.01	0.45	7.55	8.15	8.40	6.06	7,83	7,21	7.17	1.24	7.93	6.11
	23.65		第二連度開	進度間 0.45 0.43 0.43 0.43 0.43 0.43 0.43 0.43 0.43																				
	特性	新を起気前 あまでのは 第3連度間 0.39																						
		¥	第④速度層											0.36										
			第⑤速度層											0.34										
			第回速度展								0.33													
		1	第(2)速度層											0.36										
減衰 特性		減衰)	定数	0.03																				

※1:表中のσは拘束圧を表す。

<参考>解析用物性值一覧表

D級岩盤、シームの解析用物性値

~ 物 t:	 ± 値	岩種·岩級	D級岩盤	シーム				
物理 特性		密度 ρ_(g/cm ³)	2.28	2.23				
		せん断強度 ェ _。 (N/mm ²)	0.10	0.19				
強度 特性	静的 動的 特性	内部摩擦角 <i> </i>	11	18				
	1112	残留強度 r(N/mm ²)	<u> </u>					
	静的	静彈性係数 E(N/mm ²)	60 σ ^{0.20}	$G_{0.5} = 44 \sigma^{0.34}$				
	特性	静ポアソン比	0.30	0.40				
変形 特性		動せん新 弾性係数 G _a (N/mn ²)	$G_0 = 148 \sigma^{0.49} (N/mm^2)$ $G/G_0 = 1/(1+\gamma/0.00062)$	$G_0 = 225 \sigma^{0.31} (N/mm^2)$ $G/G_0 = 1/[1+(\gamma/0.00149)^{0.049}]$				
	勤的 特性	動ボアソン)比	8	0.45				
<u>滅</u> 衰 特性		減衰定数 h	$\begin{array}{l} \gamma \leq \!$	$h = \gamma / (2.14 \gamma + 0.017) + 0.031$				

※1:表中のσは拘束圧、γはせん断ひずみを表す。

※2:シームの静的変形特性については、単純せん断試験により

直接,せん断剛性(Gas)を求めている。